

# 谷中部研究だより

河北町立谷地中部小学校  
R 6 . 1 2 . 9  
N O . 3

～仲間と関わりながら、学び方を身に付ける子どもを育てる～

## 授業研から学び、ステップアップ

今年度最後の全体授業研究会、大変お疲れさまでした。今年から始まった『個人総合～個人推し活～』の授業を6年生にも提供していただき、学校全体で個人総合について学びを深められたことがとてもありがたかったです。2月に研究全体会を予定しております。今年1年間で日々の授業や研究に対して先生方が考え、感じられたことを教職員みんなで共有して、来年への一歩へ繋げていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

### <6年総合～個人推し活～>

#### 【話し合いから】

#### 視点1：課題を自分のものとして受け止め、自分で自分の学び方をさがすための工夫

- ・自分事になる課題の選択

○試行期間を設けて、自分自身のテーマを決めて活動できたことが、意欲的な活動につながった。

- 本時のめあてが曖昧な児童もいた。

→目標（最終のゴール）に向けて具体的な活動計画を立てたり、目標に沿って振り返りをしたりすることが、より目的意識を高めることができる。

#### 視点2：課題解決のために、対話的・協働的に学ぶための工夫

- ・個人総合における協働・対話の在り方

●他グループの友達との関わりや協力する姿が見られる一方で、友達がしている活動にただ混ざって楽しんでいる児童の姿も見られた。

→私たち教師が個人総合における子どもたちの『協働』『対話』の姿をよりイメージできることで、手立ても持ちやすくなると思います。

#### 視点3：自分や友達の良さや成長を実感できるようにするための工夫

- ・タブレットの活用

●成果物が残らない児童の変容や成長を見取ることができない。

→自分の変容を振り返ることができるように、動画を撮っておくことで自分のがんばりや友達の成長を実感でき、次時への意欲を高めることができる。

《ご指導》小林 宏己 早稲田大学名誉教授

◆オンタイムでの一体感 学校で友達と一緒に学ぶことの意義や良さを交流することが大切

◆発意→構想→構築→遂行→省察 探究のプロセス

◆探究プロセスを経験し、その良さや価値を自覚する子ども→自己調整できる子ども

☆このスキルが将来大人になったときにも活かされるものになる

◆「みとる」は教師の最大の仕事・みとることで必要な教師の出が 系統を立てて重層的にみとることが大切

◆最終的に「個に還る学び」になるように、教師が「教師としての役割」を全うする ※規律や調整に比重を置き過ぎない

◎今年度の取り組みは、段階的に進んだものが多かったです。来年度は年度初めの段階で学習の進め方（特に構想・構築の段階での思考ツールの使用など）を確認しながら、重層的にみとる仕組みを作り、個人総合で培う力がどのように将来へつながるのかということを保護者の方にもご理解・ご協力いただけるようにしていきたいと思いましたが、また自由進度学習やセルフスタディに関しても、目の前の子どもたちに「こんな力を付けたい！」からこそ、その学習法を取り入れていくのだということを学年・ブロックで話し合っていたいただき、単元を絞って取り組めたらと思っています。